

# ナラティブ教材としての闘病記

## ー多様なメディアにおける精神障害者の語りの教育的活用ー

小平朋江

[tomoe-k@seirei.ac.jp](mailto:tomoe-k@seirei.ac.jp)

いとうたけひこ

[take@wako.ac.jp](mailto:take@wako.ac.jp)

日本教育メディア学会第1回研究会

2010年5月29日13:00-16:20

武蔵大学8号館8604教室

セッション2 (13:15- )

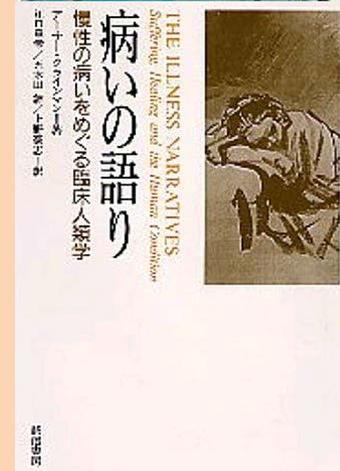
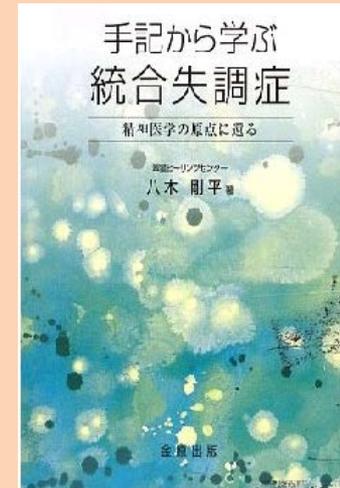
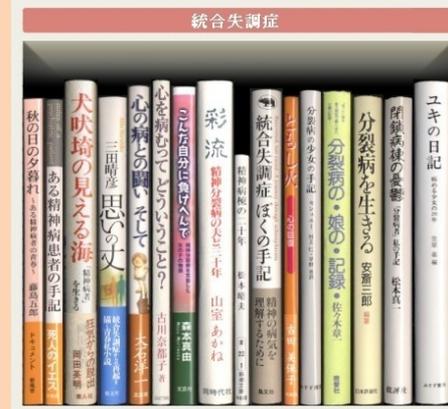
【発表15分、質疑8分、交代2分】

2015/7/3



# 問題① 闘病記への関心

- 最近、闘病記への関心の高まりが見られる。精神科領域でも特に注目したいのは、うつ病や統合失調症など精神障害を体験した人々の手により綴られた闘病記や手記である。この関心の高まりを八木(2009)は、「精神医学がこのことに無関心であってはなるまい」とし、「40数年間の診療を振り返りながらこれらの手記を読んで、すでに慣れ親しんでいるはずのこの病について驚きを新たにすることが多かった」と、著書「手記から学ぶ統合失調症：精神医学の原点に還る」を出版した。この著書の中には、本報告の中でも言及する統合失調症の当事者であり、著名な闘病記の著者でもある古川奈都子、松本昭夫をはじめとして、当事者研究という活動に取り組む浦河べてるの家なども紹介されている。
- Kleinman(1988)の言葉にあるように、病いという経験を当事者やその家族などが記録し、出版されたものが闘病記である。闘病記は、病いの体験が生々しい当事者や家族などの言葉により綴られている。教材として考えると、豊かな学びや気づきを提供してくれるものとして、たいへんすぐれたものである。



## 問題② 闘病記の意義

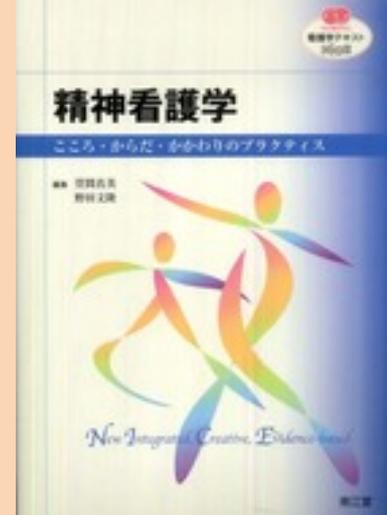
●小平朋江・伊藤武彦2008精神障害の闘病記：多様な物語りの意義 マクロ・カウンセリング研究, 7, 48-63.

- ヴィゴーツキー(2001)が「ことばの最初の機能はコミュニケーション・社会的結合の機能であり、大人の側からにせよ子どもの側からにせよ、まわりのものに働きかける機能である」と述べたように、ことばは社会的なものである。
- 闘病記はことばという道具を用いることにより、なかなか分かってもらえないこころの病いについて理解するきっかけを社会の人々に提供することで、書き手(当事者)は闘病の体験者にしか出来ない大きな社会的役割を果たしていく。

### 書き手と読み手との関係

- 読み手にとっては受動的に闘病記に綴られたことばを受け入れるのではなく、闘病記に綴られていることばを介して、闘病記の作者との間で対話がなされると考えられる。
- つまり、精神障害になったから終わりなのではなく、そこからどう生きるかを闘病記の作者との対話を通して、主体的に探っていこうとするプロセスが始まると考えられる。
- しかも、単に向き合って会話する、喋る、話す、という行為を伴わなくても、闘病記を介して書き手と読み手の間には「対話」が発生する、と捉えておくことにも意味があるのではないか。

# 問題③ 闘病記を含むナラティブ教材の意義



- 菅間(2010)は、精神看護では文学や芸術に触れることが重要であると指摘した。
- 我々は、精神障害についてのTV番組を偏見低減教育に活用する試みの中で病気の説明中心の番組よりも当事者の語りの番組の効果が大きい事が分かり、ナラティブ教材の有効性を明らかにしてきた。
- 精神看護学の授業で精神障害者の闘病記を朗読すると、学生たちからポジティブな感想が得られる。
- 本研究では闘病記を代表とする語りを中心とした「ナラティブ教材」の精神看護学にもたらす有効性を検討する。

## 問題④ 科学とナラティブ:「寛解」とは

「寛解」→国立国語研究所の市民アンケート:患者が分かりづらい医師の言葉100語の中のひとつ (朝日新聞朝刊2008年7月8日)

○精神医学事典(弘文堂)(論理科学的様式)  
「陽性症状が消失し、安定した病像が見られれば『寛解』という」

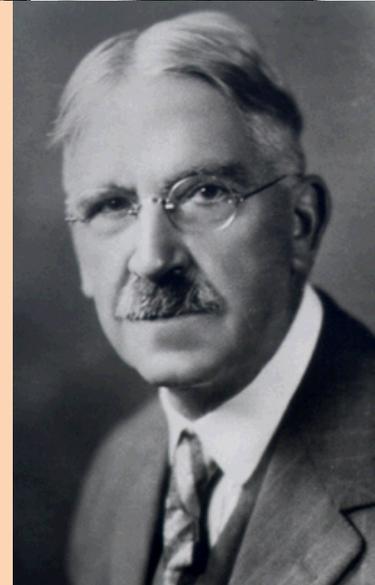
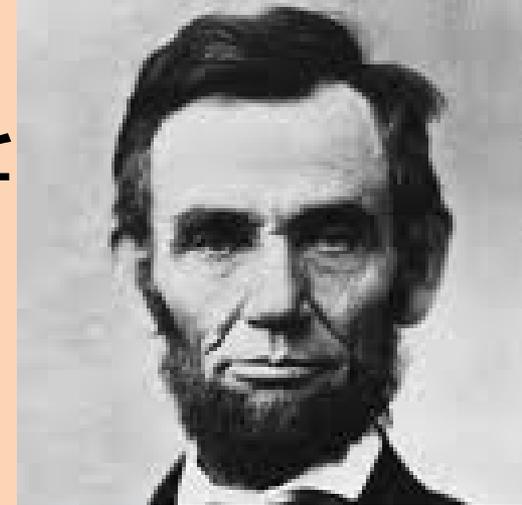
○古川奈都子(2001)(物語り様式)「精神病には、完全に治った状態ではなく、発病前のようにもどるのではなく、発病前とは全く違う別の状態で、なんとか社会生活が営める状態になることを『寛解』という言葉で言う。『寛解』したとは、自分自身が大きく成長した、飛躍したということです」

古川は、この難解な「寛解」という用語が病いの体験を踏まえ鮮やかに述べる



## 問題⑤ ナラティブ教材を一言でいうと

- リンカーン1863『ゲティスバーグ演説』「人民の、人民による、人民のための政府」
- J. デューイ(1938)『経験と教育』講談社学術文庫 市村尚久訳2004 p39「経験の、経験による、経験のための教育」
- いとう(2010) ナラティブ教材とは「他者の経験の、自分の視聴経験による、自分の経験のための教材」



# 【目的】

- 精神障害者についての闘病記としてのナラティブ教材を収集して、どのような種類のメディアが用いられているかに着目して分類する。
- それらの、ナラティブ教材としての教育的活用の可能性を分析する。
- さらに、看護学知識創造の観点から、「看護の知」においてどのように位置づくかを明らかにする

2015/7/3



体験者、医療者からのメッセージ

JPOP-VOICE

統合失調症と向き合う

体験者、医療者、支援者の声を動画で紹介しています。

VOICE

- 体験者の声
- 医療者の声
- 支援者の声

VOICE + 私たちの活動紹介

イベント 統合失調症に関するイベントのご案内

お知らせ 統合失調症に関する情報とJPOPからのお知らせ

新着情報

「統合失調症体験者・種田伸也さんの声」を掲載しました。

2月7日(日)、講演会「最近の英国精神科医療・保健・福祉改革から学ぶこと」が東京で開催されます(当事者・ご家族も参加できます)。

JPOP-VOICE 統合失調症と向き合う アンケートにご協力をお願い。CLICK

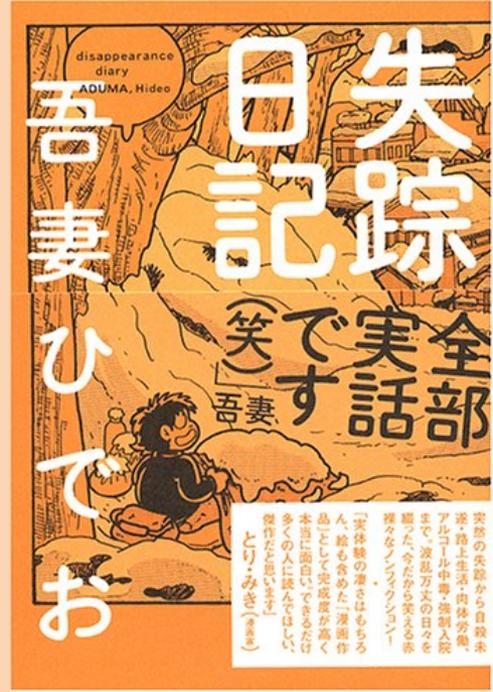
このサイトへのご意見、ご感想をお寄せ下さい。(第1回締め切りは月末)

運営協力: 大日本住友製薬株式会社

# 【研究方法】①

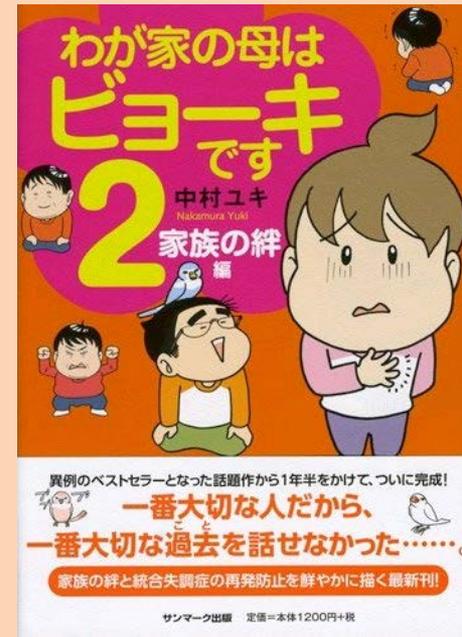
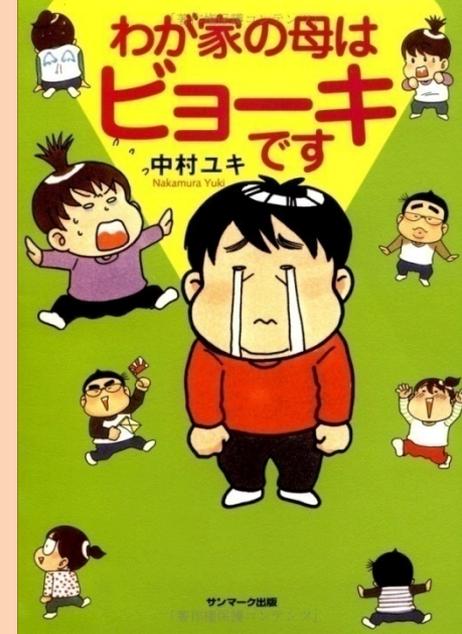
- **研究対象:**小平・伊藤(2008)を踏まえ、日本語で表現されている様々なメディアによる精神障害に関する語りがのべられている各種媒体によるナラティブ。
- **用語の定義:**ナラティブ教材とは「患者の病いの体験を患者や家族などが自ら自分のことばで語った物語りが表現された作品であり、学習者にとってその体験の理解を促進したり、助けになる目的で看護教育などに利用されうる形に教材化されたもの。」と定義する。

2015/7/3



# 【研究方法】②

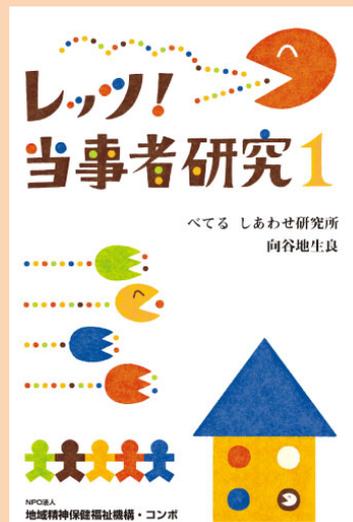
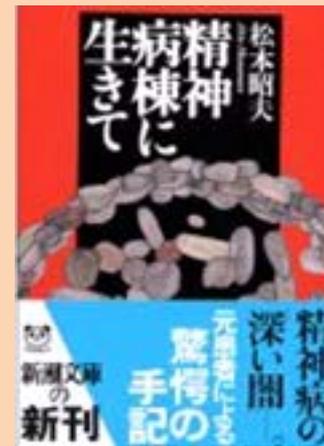
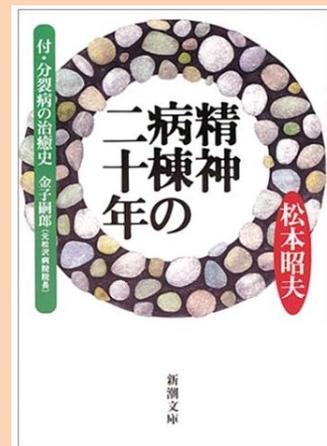
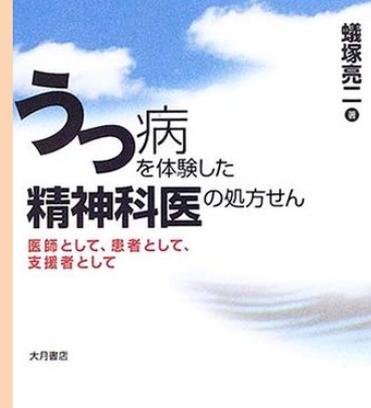
- その例として、闘病記(手記)、コミックエッセイ、録画されたTV番組、JPOP-VOICEなどのウェブサイトなど、当事者のナラティブ(語り)などがある。
- 分析方法: ①教材可能性、②発表時期、③入手可能性の観点から各種ナラティブを収集・整理した。今回の分析ではメディアの種類とその特徴に着目した。



# 【結果】①印刷媒体

- メディアの種類という観点から、ナラティブ教材になる可能性の有るものとして、以下の7種類に分類が可能であることが明らかになった。
- (1) 文章で書いてある手記としての闘病記。例として、古川奈都子「心を病むってどういうこと」、松本昭夫「精神病棟の20年」、蟻塚亮二「うつ病を体験した精神科医の処方せん」、べてるしあわせ研究所「レッツ！当事者研究1」など。

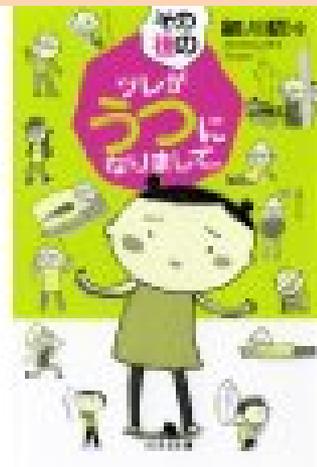
2015/7/3



# 当事者が闘病記に綴る病いの体験

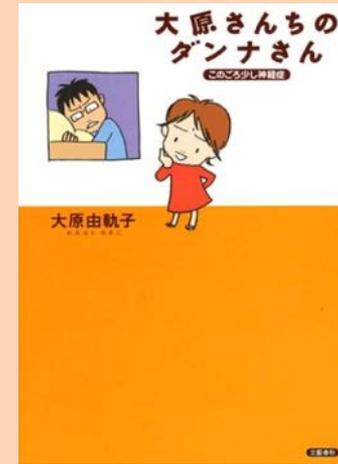
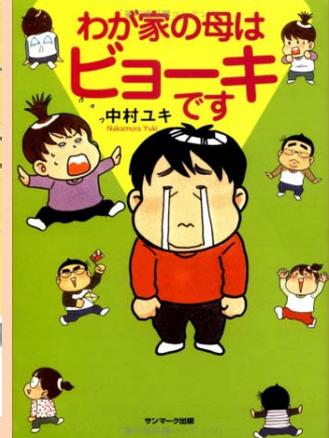
- 1) 古川奈都子、松本昭夫による統合失調症の物語り
- 2) うつ病になった精神科医師である蟻塚亮二の物語り
- 3) 藤崎麻里によるアルコール依存症の克服「溺れる人」の物語り
- 4) 細川貂々(うつ病)、中村ユキ(統合失調症)、吾妻ひでお(アルコール依存症)により、マンガで綴られる病いの物語

など



# 【結果】②印刷媒体(続き)

- (2) マンガ、コミックエッセイ。例として細川貂々「ツレがうつにな리まして。」、中村ユキ「わが家の母はビョーキです」、大原由軌子「大原さんちのダンナさん:このごろ少し神経症」、吾妻ひでお「失踪日記」、すずきゆうこ「べてるの家はいつもぱびふぺぽVOL.1」など。
- (3) 当事者の声をとりにれた定期刊行物。例として「メンタルヘルスマガジン こころの元気プラス」など。



## ある看護学生が

### 「わが家の母はビョーキです」を読んでの感想

- これまでの軌跡が生々しく綴られており、コミカルに書いてある部分も、もし、自分だったら？と考えると笑えない部分もありましたし（特にナイフを持ったお母さんに襲われるシーンなんて・・・）、ホロリと涙する部分もありました。患者さん、家族も1人1人がこのような思いを抱えて生きており、それに目を向けることは本当に重要なことだと、頭では分かっていたのですが、自分の中でやっと、つながったように思います。ナラティブって本当に大切！！ マンガの中のお母さんも実際、地域生活支援センターでお話するようになって、その人らしく生活できるようになった気がします。この考えをずーと持ち続けられたらいいと思いました。（本人の許可を得て紹介）

# 【結果】③AV,ネットワーク

(4) 当事者が素顔で登場し映像と肉声で語りが聞けるテレビ番組の録画。例として、NHK『きらっといきる』『ふたりで届けたい～統合失調症・狭間英行さん 美加子さん～』、NHK『生活ほっとモーニング』『問題あっても大丈夫～統合失調症と生きる～』など。

(5) 出版社や当事者団体やNGOなどにより作成され販売されているビデオ・DVD。例として、NPOコンボによるDVD、浦河べてるの家制作「べてるの家の映像文庫Vol.1 ようこそべてるへ」(DVD)など。



きらっといきる

NHK 教育テレビ サイト内検索  
放送 毎週金曜日 午後8時から8時29分  
再放送 翌金曜日 午後12時00分から12時29分

ホーム 「きらっといきる」について これからの放送 これま

▶ **これからの放送**



第438回 5月28日放送  
バリバラ  
～バリアフリーバラエティー～  
Vol.2



▶ **「きらっといきる」について**

▶ **案内役からのメッセージ**

1月5日放送(第342回)  
ふたりで届けたい  
～統合失調症・狭間英行さん 美加子さん～

今回は「きらっといきる」狭間英行さん 美加子さんをご紹介します。

## もくじ

- ▶ [商店街の宅配サービス・狭間英行さん 美加子さん夫妻](#)
- ▶ [宅配サービスでつながる社会との関係](#)
- ▶ [取り戻した自信とやりがい](#)
- ▶ [互いに支え合う結婚生活](#)
- ▶ [これからの夢](#)



# 浦河べてるの家 教材としての意義

精神障害(者)の姿の理解

病気の受け止め方の逆転(「病気  
と生きる」「治さない医者」)

弱さの肯定の意義

弱さの共有によるコミュニティ形成

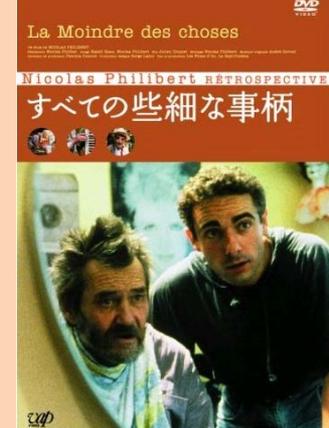
ユーモアと笑いの意義

業績主義・競争主義的価値観のゆ  
さぶり



# 【結果】④AV、ネットワーク(続き)

- (6) 精神障害者が出演するドキュメンタリー映画。例として想田和弘監督(2008)「精神」、ニコラ・フィリベール監督(1996)「すべての些細な事柄」など。
- (7) インターネットで見ることができる精神障害者に関するブログ、ウェブサイト。例として、浦河べてるの家「当事者研究の部屋」や、動画があることで当事者の素顔も見られ肉声により語りが聞け、テキストにより病いの体験が文字で読めることが同時に出来るものとしては「JPOP-VOICE～統合失調症と向き合う～」「DIPEX Japan」がある。



# 病いの語りをデータベース化してWeb公開

- ・(1)ディペックス・ジャパン:  
健康と病いの語りデータベース



DIPEX(Database of Individual Patient Experiences)の日本版に取り組むDIPEX-Japan 『がん患者の語りウェブサイト』

<http://www.dipex-j.org/>

体験者、医療者からのメッセージ  
JPOP-VOICE

がんと向き合う

統合失調症と向き合う

- ・(2)JPOP-VOICE 病気と向き合う体験者、医療者、支援者の声を動画で紹介

「統合失調症と向き合う」「がんと向き合う」

<http://jpop-voice.jp/index.html>

©両方共、当事者、医師、看護師、研究者など関係者、皆がアクセス可能

# 【考察】①

- (1)(2)(3)は印刷媒体で、書籍として出版されていて書店などで入手可能である。精神看護学の授業では朗読、課題として読ませる、印刷教材の中に入れるなどの方法がある。
- (4)(5)は、授業でその全部または一部を視聴させ、視聴前後の変化を見ることができる。
- (6)には、俳優が演じているが実話に基づいている統合失調症の数学者を描いた「ビューティフル・マインド」などを入れることもできよう。ナラティブ教材としては長時間であるのが難点である。
- (7)は印刷して教材化する他に、直接提示・上映する、あるいは宿題としてウェブサイトを視聴する方法がある。

## 【考察】②

- 偏見低減のEASESモデル(Kodaira & Ito, 2009)と照合して多くのナラティブ教材では、偏見低減に優れた特徴がある
- Effective: 効果的、● Amusing: 面白く興味深い内容
- Safe/Non-expensive/Sustainable 安全・安心して用いられ高価でなく持続可能、● Easy access: 入手が困難でない、
- Short: 短時間での活用が可能
- 当事者を教室に招いたり模擬患者を導入したりするよりも、特に「知識」と「気づき・態度」の領域ではナラティブ教材のメリットが大きい。
- 臨床現場の看護師の経験を知に変換する知識創造の中山(2004)のモデルでは、臨床知と理論知に加え闘病記などのナラティブ教材は知の第3の源泉になる(図1 →)。

# 中山洋子 2004 看護の“知”の水脈を探る 聖路加看護学会誌, 8(1), 44-49.

- 臨床現場の看護師の経験を知に変換する知識創造の中山(2004)のモデルに於いて、臨床知と理論知に加え闘病記などのナラティブ教材は知の第3の源泉になる

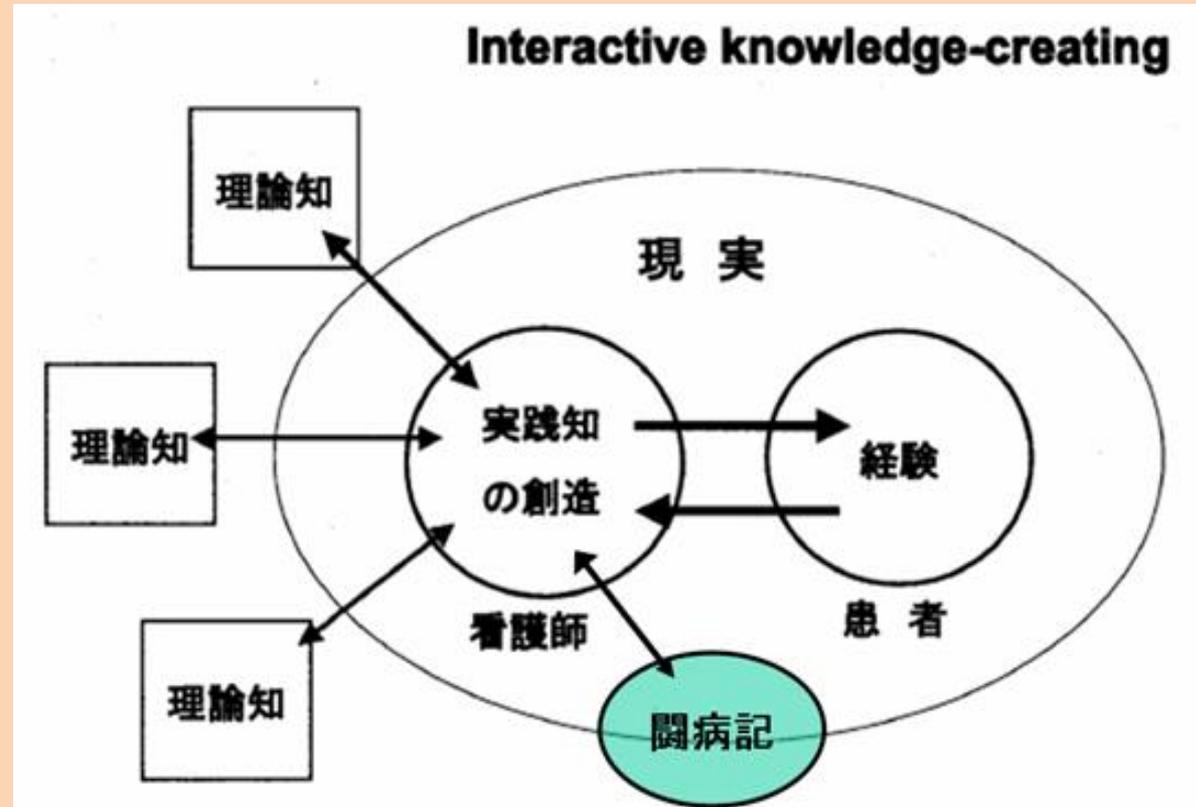


図1 経験を知に変換する「知識構造」図

(中山, 2004) への闘病記の位置づけ

- 【文献】 Dewey, J. (1938) Experience and education. Macmillan  
市村尚久訳(2004) 経験と教育 講談社学術文庫
- 萱間真美 2010 ケア対象者はどんな体験をしているのか 萱間  
真美・野田文隆(編) 精神看護学:こころ・からだ・かかわりのプ  
ラクティス 南江堂 Pp. 2-5.
- 小平朋江・伊藤武彦2008精神障害の闘病記:多様な物語りの意  
義 マクロ・カウンセリング研究, 7, 48-63.
- Kodaira, T., & Ito, T. 2009 Video-based preventive education for  
reduction of the prejudice towards schizophrenia. *The 1st  
International Nursing Research Conference of World Academy of  
Nursing Science, Kobe: Program & Abstracts*, 163.
- Lincoln, A 1863 The Gettysburg address.  
<http://www.geocities.jp/sybrma/234lincoln.address.html>  
(2010/04/26取得)
- 中山洋子 2004 看護の“知”の水脈を探る 聖路加看護学会誌,  
8(1), 44-49.